



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



イエローハットとピザハットのハット違い

カー用品チェーンのイエローハットは、創業者の鍵山秀三郎氏が昭和 37 年に(株)ローヤルを創業し、平成 9 年に現在の(株)イエローハットに商号変更したものの。商号は交通安全を願って「通学時に児童がかぶる黄色い帽子」から付けたものである。鍵山氏はトイレ掃除が周囲の意識、ひいては会社や社会を変えよとの信念を持った経営に取り組んできた。こうした考えは社員だけでなく、社外にも広がり道路や公園のゴミ拾いにも及んだ。鍵山氏の理念の賛同者は、とくに中小企業経営者に多い。



一方、ピザハットはアメリカ、テキサスに本社を構える世界最大のピザチェーン。会社のロゴは赤い小屋の屋根を模しており、「つば付きの帽子(hat)」のようにも見えるが実際は赤屋根の小屋(hut)である。



すなわち、イエローハットのハットは「帽子」、ピザハットのハットは「小屋」というハット違いである。





ノーベル賞作家・ヘミングウェイの傷だらけの人生

「日はまた昇る」「武器よさらば」「誰がために鐘は鳴る」の著者として知られるヘミングウェイは、傷だらけの人生を送った人物だ。

子供のときは扁桃腺に棒を突き刺し、また、釣り針が背中にめりこんだことがある。そして1918年（19歳）第一次世界大戦ではイタリア戦線に赴き瀕死の重傷を負う。1944年にはオートバイから投げ出されて脳しんとうを2度経験、翌年も無茶な運転で事故を起こし、膝の骨と肋骨を折った。1950年には転倒して動脈を切り、ライオンの爪で重傷を負ったこともある。

そして1954年には二度の航空機事故に遭う。腎臓・肝臓が破裂するなどしたが奇跡的に生還した。この年に1952年に出版した「老人と海」が評価され、ノーベル文学賞を受賞したものの、重傷のため授賞式には出席できなかった。

晩年は、事故の後遺症から精神的に悩まされるようになり、1961年7月散弾銃によって自殺を遂げてしまったのである。享年61。

国旗に三色旗が多いのはなぜか

「三色旗」というと多くの方がフランス国旗を思い浮かべるのではなかろうか（フランス革命の1789年に制定）。しかし、三色旗の元祖はオランダであり、フランスが国旗を制定した200年以上前の1574年にオレンジ（のち赤に変更）、白、青の三色旗を国旗として採用している。その後、急速に三色旗を国旗にする国が増え始めたのである。それは、当時のオランダが世界でも有数の先進国だったからだ。



オランダは1568年～1648年のスペインとの八十年戦争（オランダ独立戦争）以後、自由と民主主義を重んじる世界のリーダー的存在となり、そうしたオランダにあやかろうと、まずヨーロッパの国々がオランダの三色旗をまね、さらに他の地域の国々も追随していったのである。

・写真はオランダ国旗



長期投資仲間通信「インベストライフ」

夏目漱石が徴兵逃れ？

夏目漱石は慶応3年の東京生まれだ（現在の新宿区）。その漱石は明治25年に本籍を北海道の日本海側にある岩内町に移している（当時26歳）。理由は徴兵を逃れるため、東京に籍を戻す大正3年までの22年間、北海道に籍があったが一度も行くこともなかった。

当時、北海道と沖縄は徴兵の適用外となっていた。特に北海道は屯田兵が置かれており、道民の多くは開拓に努めていた。人口も少なかったため、道内に戸籍がある者は兵役が免除されていたのである。

銀座名の商店街が多いのはなぜか

全国各地で銀座と名の付く商店街を見かける。その数は日本全国に345か所も存在する。中でも東京都内が最も多く90か所もある。東京で銀座と名の付く商店街で最も有名なのは戸越銀座だ（他に谷中、砂町、十条など）。東京に「〇〇銀座」が多いのは、日本一の繁華街である銀座にあやかっているが、もう一つある願いが込められている。

それは大正12年に発生した関東大震災の時、銀座の復興が最も早かったからだ。当時、銀座には多くの土地を持っている地主がおり、困っている店があつたら自分の土地を貸し出し、協力して復興を早めたのである。そうした状況を見て、銀座のように早く復興したいという願いが込められたのである。

銀座は大震災で多くの建物が倒壊した。そこで出たガス灯用の耐火レンガなどを都内の商店街が譲り受け、道路に敷き詰めるなど工事に活用した。それによって復興を早めることができた。そして、銀座のように自分たちも早く元気になりたい、そういう思いから、戸越の場合は戸越銀座という名が付けられた。そして、復興が早かった銀座への憧れから全国に銀座と名の付く商店街が増えていったのである